

住民の“まなざし”から考える変わりゆく“函館”

地域の環境変化に対する 函館市民の意識調査

結果概要

1

はじめに

これまで市民のみなさんが見聞きした地域の変化に関する情報は、人口が減ったあるいは増えたという「数」や、それにとまって生じている経済や産業活動に関する指標が多かったのではないのでしょうか。また、こうした指標は、ほとんどの場合、函館市全域のものとして示されていたのではないのでしょうか。

地域社会の変化と、その変化が地域住民に与える影響に関する近年の研究では、二つの事柄に対して注目するものが増えています。一つ目は、地域の変化に対する住民の意識です。人口の増減や商業施設の数といった数値や景観といった客観的なものにとどまらず、そこに住む人々の主観を重視することです。二つ目は、市町村といった基礎自治体レベルではなく、より小さな区域である「近隣」レベルで地域の変化をとらえることです。こうした研究では、地域の変化をとらえる客観的つまり人口の増減や産業活動などの数値と、変化に対する地域住民の主観的な評価は必ずしも一致しないこと、地域に対する満足度や移住等には、住民の主観的な評価が重要な役割を果たしていることが示唆されています^{1), 2)}。また、一口に地域の変化といっても、人口の増減率、人口構成（年齢、性別、職業や国籍など）、景観の変化や住民の意識というのは、「近隣」レベルで異なる様相を呈しており、基礎自治体レベルの指標のみで地域の変化を捉えることの限界も示されています^{3), 4)}。

こうした背景を踏まえ、私たちは、「地域の環境変化に対する函館市民の意識調査」と題して、函館市内を町単位に区分し、その変化を「地域住民の視点（まなざし）」からとらえることを試みました。このことによって、地域社会の衰退の根源的な問題とされがちな「人口減少」について、これまでとは異なる視点を提供できると考えます。

2

調査の概要

本調査は、函館市内の「近隣」のここ10年間の変化について、そこに住む住民の視点(まなざし)から把握しようと試みたものです。函館市の姉妹都市であるカナダのハリファクス市を含む、カナダ東部沿岸地域4都市(ハリファクス、シャーロットタウン、モンクトン、セント・ジョンズ)でおこなわれた、「近隣の変化と地域住民の認識に関する調査(Perceptions of Change Project)」⁵⁾を基に設計しました。函館では、近隣を「町」とし、地域住民が過去10年間における「町」の変化をどのように捉えているか、経済、社会・文化、景観(建築物等)の3つの観点から把握するものとなっています。

2020年7月に、住民基本台帳をもとに2,000人に対してアンケート表を送付し、421人から回答を得ました。調査当時は、新型コロナウイルス感染症が広がりはじめた時期でもありました。市民のみなさまが不安をかかえるなか、ご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。



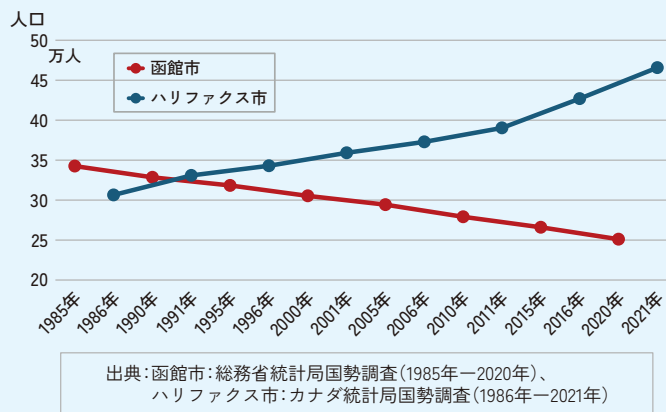
3

調査の結果

その① ～函館とハリファクス～

まず、本調査のモデルとなったカナダ・ハリファクス市と函館市の比較を行います。函館市とハリファクス市は、1982年に姉妹都市提携をしました。姉妹都市提携当時の函館市の人口は約32万人でした。一方、ハリファクス市は、28万4,000人でした。函館市の人口は、1984年を頂点にその後減少傾向となりますが、ハリファクス市の人口は増加を続け1991年に両市の人口は逆転します。2021年のハリファクス市の人口は約46万人で、函館市の人口をはるかに上回っています(図1)。

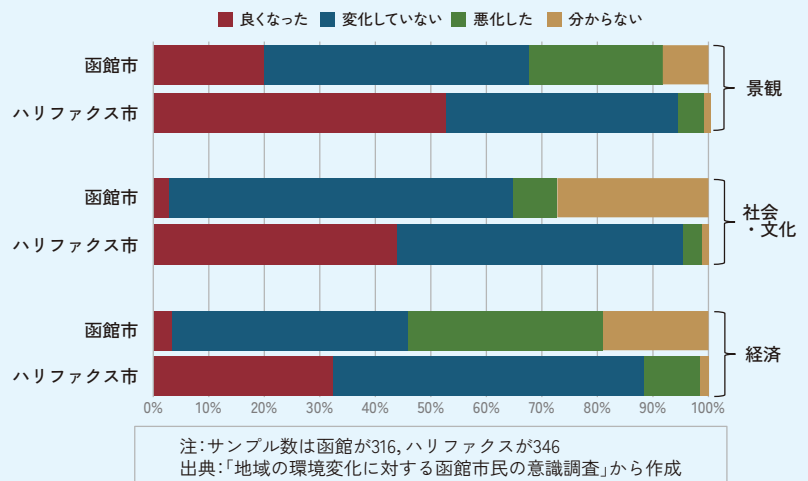
図1 函館市とカナダ・ハリファクス市の人口推移



一般的に、人口減少は経済規模の縮小や労働力不足の要因ともなり、医療や福祉をはじめとする社会生活を支える仕組みにも影響を及ぼすことが懸念されます。こうした状況を反映してか、今回の調査でもいくつかの点で、両市の違いが示されました。例えば、地域の経済、社会・文化、景観(建築物等)の過去5～10年間の変化について、ハリファクス市では「良くなった」と答える住民が多いのに対して、函館市では「悪くなった」との答えが多くなっています(図2)。

この結果からは、人口減少と住民の地域に対する評価には関係があることが示唆されているように見えます。しかし、こうした市全域で集計したデータは、市内のより小さな居住単位、町ごとの重要な違いを覆い隠している可能性があります。

図2 住民の「近隣」の変化に対する評価 函館市・ハリファクス市比較



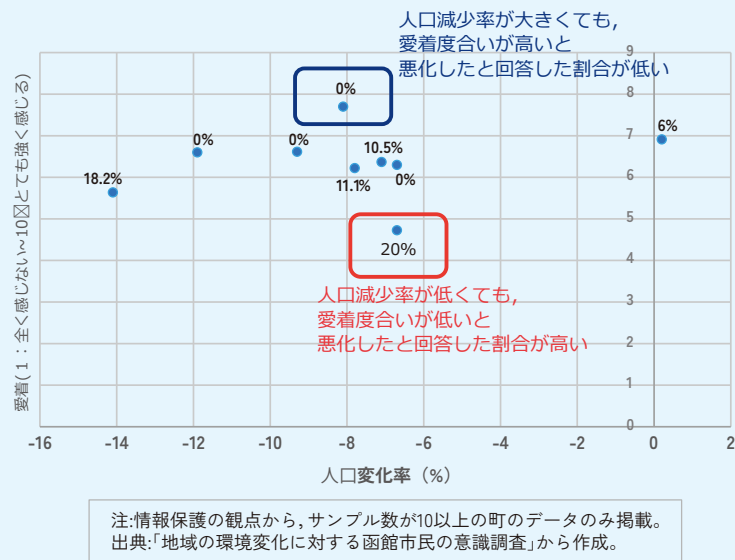
4

調査の結果

その② ～近隣への注目～

図3のグラフは、私たちがおこなった調査に基づき、函館市内の町を単位とした場合の「人口減少の度合い」と住民の「居住地への愛着」を踏まえて「地域の変化に対する住民の評価」を示したものです。たしかに、函館市は人口減少が急激に進んでおり、大きな課題となっています。

図3 「地域社会・文化が悪化した」と回答した割合と人口変化率・地域への愛着度合いの関係



しかし、その状況をどう受け止めるかについては、居住地域によっても異なります。函館市の住民の居住地域に対する認識を町レベルで見ると、例えば、地域社会・文化的な側面に関しては、必ずしも人口減少率が大きい地域が「地域の状況が悪化した」と認識しているわけではないことが分かります。

本調査の結果を見ると、図3の青枠で囲まれた町のように人口減少率が大きくても、「居住地への愛着」が高い場合には、地域社会・文化的な側面について、過去5～10年間に悪化したと捉える住民の割合が低いことが示されています。一方で、赤枠で囲まれた町のように人口減少率が小さくても、「居住地への愛着」が低い場合には、「近隣」の変化をネガティブに捉える住民の割合が高いというケースも見受けられるのです。

5

これからの 函館について

～ハリファクスとの共同研究から～

人口の流出や空き家が増えていること、商業施設の撤退などの情報は全く気にしないではないというわけではありません。しかし、今回の調査では、人口減少率が大きいからといって、その地域に住む人々が、過去5～10年間の町の変化を必ずしも否定的にとらえているわけではないこと、また、人口減少にかかわる住民の意識は、市内の地域ごとでも異なることが示されました。このことを踏まえると、「人口減少」そのものだけをとりあげて問題だと論じることはあまりよい方法とはいえません。また、人口減少問題を考える際には、函館市全体だけでなく近隣(町)レベルでの住民の認識を把握する必要があります。

図4 ハリファクス・インデックス



出典:Halifax Partnership, Halifax Index 2022 Presentation p.3.

今回の調査のモデルとなったハリファクス市では、ハリファクス・パートナーシップという官民協働で運営している経済開発団体が、「ハリファクス・インデックス」⁶⁾という市民生活やまちの持続的成長に重要な指標を毎年公表しています(図4)。たとえば、人口統計や教育水準、労働環境や雇用、所得と物価、生活環境、保育や貧困に関わる統計をまとめて、分かりやすく公表することで、地域住民や企業あるいは社会福祉団体などが、まちづくりの方向性について横断的に話し合うための共通の材料を提供しています。ハリファクス市の住民が地域社会の変化に対して肯定的である背景には、人口が増加し経済的にも発展を続けていることに加えて、住民が自分たちの地域の状況を把握し、まちの方向性を主体的に考えるとりくみがあるのではと考えています。

これからの函館を考えて行く際にも、人口減少をはじめとする「町の変化」について具体的なデータを提示しながらも、そこに住む住民が町をどのようにとらえどうしていきたいか、住民自身が考えていくことが大切なのではないでしょうか。今回の調査を端緒として、今後も市民のみなさんに有益な情報を提供していきたいと思っています。また、市民のみなさんによるまちづくりの議論がいつそう旺盛になされることを期待しています。

■プロジェクトメンバー

代表:森谷康文

藤井麻由, 古地順一郎, 中村直樹, ハワード・ラモス(カナダ・ウェスタン大学)

連絡先:〒040-8567北海道函館市八幡町1-2 北海道教育大学

Tel: 0138-44-4305, Email: moritani.yasufumi@h.hokkyodai.ac.jp

本研究の結果をより詳しくご覧になりたい方はこちらをご参照ください。

報告書:<https://drive.google.com/file/d/1B3VKIA-kKuHM08JyKeKa6ExQM87edBwH/view?usp=drivesdk>

調査票:https://drive.google.com/file/d/1TP4yto5YTX_EGXHsRw7Vi1MLEgqiO5Tx/view?usp=drivesdk

報告書



調査票



■引用文献

- 1) Barreira, A. P., Nunes, L.C., Guimarães, M.H., Panagopoulos, T. (2019). Satisfied but thinking about leaving: The reasons behind residential satisfaction and residential attractiveness in shrinking Portuguese cities. *International Journal of Urban Sciences*, 23 (1): 67-87.
- 2) Liu, Y., Hu, Y., Sun, H., & Zhou, G. (2020). Study on Residents' Quality of Life in the Context of Urban Shrinkage: Analysis Based on Subjective and Objective Data. *Journal of Urban Planning and Development*, 146 (3), 05020015.
- 3) Kaida, L., Ramos, H., Singh, D., & McLay, R. (2020a). How to capture neighborhood change in small cities. *Canadian Studies in Population*, 47 (3), 195-205.
- 4) Kaida, L., Ramos, H., Singh, D., Pritchard, P., & Wijesingha, R. (2020b). Can Rust Belt or Three Cities Explain the Sociospatial Changes in Atlantic Canadian Cities?. *City & Community*, 19 (1), 191-216.
- 5) Perceptions of Change Project: カナダの東部沿岸4都市の住民が、自分たちのコミュニティで起きている環境の変化をどのようにとらえているかを調査したもの。<http://perceptionsofchange.ca/>
- 6) ハリファクス・インデックス: <https://halifaxpartnership.com/research-strategy/halifax-index-2022/>

本調査は、北海道教育大学「学長戦略経費(重点分野研究プロジェクト)」の助成を受けたものです。

